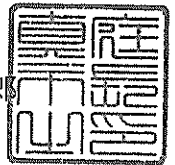




真建設第 37 号
平成 19 年 4 月 26 日

国土交通省道路局長 様

岡山県真庭市長 井手 紘一郎



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (回答)

道路行政の推進につきましては、平素よりご指導をいただき厚くお礼申しあげます。

平成 19 年 4 月 2 日付、国道企第 114 号でご依頼がありました標記の件につきましては別添のとおり回答いたします。

平成19年4月26日

岡山県・真庭市

今後の道路政策や道路の整備・管理について

真庭市での現況と課題

本市の広域交通網は、東西に中国自動車道、南北に米子自動車道及び岡山自動車道が走り、近年阪神、四国、山陽、山陰経済圏域との結びつきが強まり、中国地方の東西南北交通の要衝となっています。

しかしながら、これらへのアクセスとなる国道181号、313号、482号や県道の42路線は、地形上などの問題点もあり、まだまだ未整備路線も多く計画的に着実な道路整備がより一層重要となっています。

本市は平成17年3月に9カ町村が合併し面積828k㎡と県下でも最も広い地域であり、このため、市道も1,818路線1,155kmにもなっています。改良率は53.7%と県内市町村道改良率の41.3%を少し上回っているものの、まだまだ未整備路線も多く地域住民からの強い改良要望が出ているところです。

本市といたしまして今後の道路政策や道路の整備・管理について基本的な考え方は次のとおりです。

1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

「地域の生活を支える道路ネットワークの形成」

市町村合併により地域が広域化しており、特に旧市町村境の道路整備が遅れている。また、中山間地域には道路整備の遅れにより若者定住が進まず、耕作放棄地の増加や集落機能の低下が著しく早急な対策が必要とされている。

「観光地へのアクセス強化」

本市は、蒜山高原、湯原温泉、神庭の滝などの県内有数の魅力的な観光資源に恵まれており年間400万人の観光客が訪れているが、総合計画で500万人誘致を目指して努力している。このため、観光行政、道路行政が一体となり景観を考慮した安全で安心できる観光地へのアクセス強化に取り組まなければならない。

2 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

「地域の実情に合わせた柔軟な規格・構造に」

道路整備計画に当たっては、住民意識の多様化や社会参加意識の高まりの中、計画段階から地域住民や利用者へ参加を求め、住民ニーズを積極的に反映することが必要である。これらにより部分的には標準規格・構造にとらわれず地域や地形の実情に応じたものとし工事コストの縮減に努める。

3 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関すること

「地方の裁量が高まるような道路政策を」

道路整備を進めるうえでの優先順位では、まず基準になるのが交通量であるが、地方の特に中山間地域では交通量は少なくとも危険箇所数も多く緊急車両が乗り入れできず、このまま放置しておくとも集落の崩壊につながるような地区も多くあり、過疎債や辺地債事業のみならずこれらの道路整備に市町村の裁量が高まるような施策が望まれる。

「維持管理費の国庫補助制度の創設を」

各自治体とも老朽化した橋梁等の道路構造物を早期に調査診断し、耐用年数を延伸させる時期に来ている。道路整備の効率化や低コスト化を促進するうえでもこれらへの国庫補助制度を創設し早急な取り組みが望まれる。